



フランス人デザイナーと（NHK取材風景）

天然藍の高効率染料化、染色技術の 高度化及び高感性化事業



実施した事業の概要と成果

天然藍を用いた染色は最近衣類だけでなく、装飾品、木製品、革製品などの染色法として見直しされ始めている。しかし、伝統的な藍染は藍の収穫後、極めて長い時間をかけて発酵させる必要があるため、高品質であるが高コストである。当社は、天然藍を原材料として高効率、低コストで染料化する下記技術を開発した。

① 乾燥した藍葉を高効率に染料化する技術

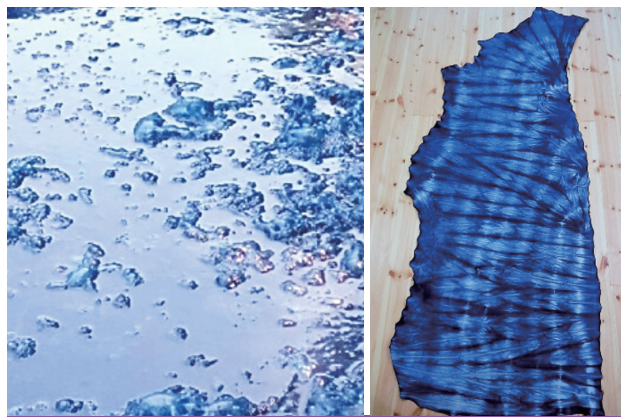
成果としては、生産期間の大幅な短縮が期待できる。製品は染料原材料として、皮革・繊維製品の染色に適する。

② 藍葉刈り取り後の高効率な染料・顔料製造技術

製品は木材・金属等への塗布用としての用途に利用可能で、日本の色：ジャパンプルー関連製品開発への貢献ができる。



藍染料



藍染液と藍染絞り革



製品開発や課題解決の具体的取組み

① 乾燥した藍葉を高効率に染料化する技術

藍を乾燥、粉末化することによって不溶性のインジゴの量を増やし、温度、pH、薬剤の投入タイミングなどを調整する方法で発酵を加速させ、短期間に水に可溶の還元型にする。その後は染色と酸化を繰り返すことにより、水に溶けない元のインジゴ状態に染色される。この技術は伝統的染色法「スクモ」にする方法と遜色ない色の表現が可能であり、染料として利用できる。

② 藍葉刈り取り後、高効率に染料・顔料を製造する技術

刈り取った藍の生葉をすぐに水に漬け、水溶液のインジカン水を水に溶出させ、石灰等を投入後、高酸化技術で不溶性の色素インジゴを高効率に生成させて、水の中にインジゴ色素を沈殿させ抽出する。この技術は短時間で染料となる特徴を有し、コスト面でも優位に働くことを期待している。顔料化したものに固着剤を加え塗布する用途に利用できる。



藍の栽培風景

事業者	株式会社絹や
代表者	代表取締役 山田 明弘
設立年月	昭和36年10月
所在地等	〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西2丁目 35番地1 TEL：088-622-1745 FAX：088-622-0141 http://www.wa-kinuya.com
事業区分	ものづくり技術
資本金額	1,000万円
従業員数	6人
業種	織物・衣服・身の回り品小売業

株式会社絹や の

代表取締役

山田 明弘



フランス展示会出展時

本事業取組みへのきっかけと目的

当社は、ものづくり中小企業製品開発等支援事業で大学と共同で天然藍を原料として効率的に染料化する技術を開発した。

この研究成果を基に、環境にも優しく、短時間でシンプルな仕組みによる天然藍染の工業化を図り、コスト面でも優位なシステムを構築する。

今後の展望と活動予定

天然染料藍は合成染料との差別化を有する競争力がある。また歴史性や物語性、美意識、工芸価値を持ち価値が高く、市場からの評価も高い。今後JAPAN BLUE ブランドとして様々な産業や世界に販路を拡大していく。